

伝統文化シネマ

伝統工芸の名匠シリーズ

2009年教育映像祭 優秀映画教材選奨 DVDの部教養部門優秀作品賞 受賞

うづわに託す — 大西勲の髹漆 —



ISA O N I S H I



髹漆曲輪造盤 蒼い月夜

2009年制作・HD作品/カラー/35分

伝統文化シネマとは

人間国宝の卓越したわざ、各地域に伝承されてきた民俗芸能・行事は、時代を超えて私たちに語りかけてきます。このような優れた無形の伝統文化を、「伝統工芸の名匠」「伝統芸能の粋」「民俗芸能の心」シリーズとして記録映画を制作しています。

人間国宝の卓越したわざ、各地域に

Pola Foundation for the Promotion of Traditional Japanese Culture

公益財団法人 ポーラ伝統文化振興財団

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-2-10 ポーラ第2五反田ビル
TEL 03-3404-7652/FAX 03-3404-7503

大西 勲 おおにし いさお

1944年(昭和19)福岡県生まれ。木工や鎌倉彫を学んだ後、1974年より赤地友哉(重要無形文化財「髹漆」保持者)に師事。1982年から石川県立輪島漆芸技術研修所、香川県立高松漆芸技術研修所で講師を務める。師の死後、1985年第32回日本伝統工芸展へ初出品で入選。以降、1988年日本伝統漆芸展文化庁長官賞、2000年第47回日本伝統工芸展日本工芸会総裁賞ほか、受賞多数。2002年重要無形文化財「髹漆」保持者に認定。2004年紫綬褒章受章。

企画：公益財団法人ポーラ伝統文化振興財団
 製作：株式会社大峠プロダクション
 監修：柳橋 眞(金沢美術工芸大学名誉教授)

●製作スタッフ

製作：大峠 幸雄
 宮下 英一
 脚本・演出：井上 実
 撮影：八幡 洋一
 照明：江森 清八
 VE：古藤 司
 小林 貴史
 微速度撮影：(有)フォーマルハウト
 編集・MA：東京テレビセンター
 音楽：清水 健太郎
 効果：黒澤 道雄
 制作：山内 隆一
 題字：川又 南岳
 語り：佐藤 オリエ

●撮影協力

青森市教育委員会(小牧野遺跡)
 安島 道雄
 石川県立輪島漆芸技術研修所
 石川県輪島漆芸美術館
 笠間稲荷神社
 社団法人 日本工芸会
 垂見材木店
 中間市歴史民俗資料館
 八戸市縄文学習館(是川中居遺跡)
 文化庁
 真岡鐵道株式会社
 輪島市教育委員会
 (五十音順、敬称略)

●資料提供

赤地 友敬
 山本 宣子
 山崎 治子
 大内 隆三
 (順不同、敬称略)

金沢美術工芸大学名誉教授 柳橋 眞

重要無形文化財「髹漆」保持者(いわゆる人間国宝)の大西勲は、師匠の赤地友哉の代表的なわざである曲輪造を忠実に伝承すると共に、しだいに自らの特色を強めている。

髹漆とは漆塗りをさす。現代では漆は絵の具のようにあらゆる色を表せるが、本来自らの潤色の他に黒・朱・黄・緑の四色しか出せなかった。しかし漆黒の美といわれるように黒漆塗りは、漆の神秘的な艶を豊かに表すので、最も多く使われ、朱漆と組み合わせると、たとえば懷石料理の内朱外黒の漆碗のように鮮烈な効果をあげる。第二次世界大戦以前の赤地はまさに茶道具などの名手であった。だが第二次世界大戦以後の現代漆芸では、約束事で企画寸法の定まった作品ではなく、自ら器形をデザインし、自ら様地を作り、自ら漆塗りをするという一貫した制作態度をとるものではなくては髹漆作家と認められなくなった。この転換期に立つて赤地は新しい曲輪造を始めた。従来の曲輪造ならば全体に布貼りして、内側の構造が分からないが、一本ずつ曲輪を布貼りし、漆を塗って仕上げてから組み合せた。器の構造じたいが意匠となり、力強い構造美を示した。何千年の漆芸史でかつてなかった革新的な表現であった。

大西勲は九州の炭鉱の地に生れ、幼年の頃から石炭の質の違いを知って育った。大工の父から木工を学び、夢中になって軍艦の模型を自ら工夫して作った。師の赤地は大西の力量を信頼した。金沢に育ち、遠州流の茶人である赤地友哉の作品は優美で女性的である。大西勲の作品は力強く男性的で、その黒漆塗りは石炭の黒い肌ざわりを思わせ、朱漆塗りは石炭の赤々と燃え上る炎である。



檜材にかなな掛けをする



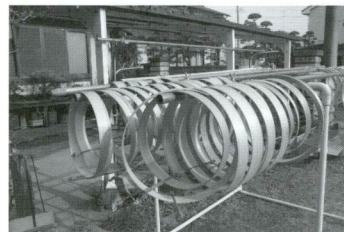
雨にさらして灰汁抜きをする



漆掻き職人による漆掻き



図面を書く



檜板を煮て曲げたあと乾燥させる



曲輪をつくる



晴天の日に漆をクロメる



様地を補強する



組み上がり、うつわの形になった曲輪

映画内容

うつわの基礎となる様地を檜材による曲輪でかたちづくり、漆を塗り重ねていく「髹漆」の技法により、平成14年に重要無形文化財「髹漆」保持者に認定された大西勲氏。本映画では、漆を塗ると見えなくなってしまう曲輪の様地づくりから、何度となく漆を塗り重ねる気の遠くなるような工程を丹念に追い、氏の卓越したわざを映し出すと共に「髹漆」にかかる思いを描いた作品である。